

講評

第17回公共建築賞 九州・沖縄地区審査委員会 委員長

鹿児島大学大学院理工学研究科教授

鯨坂 徹



公共建築賞・
優秀賞

文化施設部門
(九州・沖縄地区)

北大東村りんこう交流館

北大東島は、かつてリン鉱の採掘により栄えた島である。その跡地や周辺の集落群は、重要文化的景観の保護対象地区となっており、本施設は重要構成要素でもある。文化財登録されていた史跡の保護や保全に留まらず、再生と活用を目指して、島の産業を支える「交流館」として整備された点が、「これからの公共建築」として高く評価できる。

リン鉱最盛期には、1,500人を超えていた人口も、現在は700名程度まで落ち込み、サトウキビを主とする農業を基幹産業としている。そのため、地域振興や人口維持を目指して、新たな産業や島内生活のアメニティ向上が求められていた。

北大東村りんこう交流館は、文化財を生かして島の歴史を語る情報センターとしての機能に限らず、このような「地域の課題」を、改善する役割を担っている。具体的には、島民間の交流の場である飲食店や、新たな産業を育むマリレジャーの拠点機能が併設され、実際に、この施設整備に関連して、6名を移住者として島に迎えている。

設計・施工に当たっては、登録有形文化財である廃墟化した石積壁の内側に鉄骨架構により屋根を復元、石積

壁をセメントグラウト充填補強工法で補強し、見学するだけの文化財を活用できる文化財とした。この工法を採用するに当たっては、サンプルによる丁寧な調査と検証がなされ、文化庁への現状変更届と確認申請により検査済書も取得した稀有な事例であり、今後のリビングヘリテージの規範となる建築である。

さらに、北大東村りんこう交流館は、リン鉱に関連する施設群や、漁港と魚市場といった周辺施設との連携を目指している。周辺の整備計画の先駆けとして共用開始されており、今後の展開が大いに期待できることから評価し、推薦するものである。



公共建築賞・
優秀賞

生活施設部門
(九州・沖縄地区)

熊本県立熊本かがやきの森支援学校

肢体不自由、知的障がい等複数の障がいを有する重度重複障がい子どもたちを対象とした全国初の特別支援学校として、先駆的・意欲的な取り組みが行われており、「木造の学び舎」「見守りの学び舎」および「安心・安全の学び舎」のコンセプトを実現した公共建築である。

プロポーザルの案を発展させ、受発注者の協働により、平屋建とし、職員室からエントランスを見渡すことのできる等日々の成長を育む「見守りの学び舎」を実現する平面計画となっている。

また、重度重複障がい児の生活環境に配慮し、「ADL（日常生活動作）向上」と「空間の豊かさ」を目的に、木造構造とし、多彩で表情豊かな木架構を実現するとともに、重度重複障がい児の学習環境に配慮し、学術研究者の監修により、「ユニット型」教室配置と多様な学習空間を構成している。

木架構は、集成材を用いず、在来工法で組み上げた純熊本県産の建築にこだわり施工されたが、県内のみの材料調達のため、入念な情報収集を通じた確度の高いコス

トコントロールとスムーズな木材供給により実現した。

体育館および管理棟前広場の地域開放を行っており、特に体育館については、ほぼ毎日、地域のクラブ活動等に利用されている。

このように、整備段階、維持管理段階を通して、地域にも貢献する公共建築となっている。



公共建築賞・
優秀賞

生活施設部門
(九州・沖縄地区)

山鹿市立山鹿小学校

RC造3階建ての校舎を、木造2階の建築に、仮設校舎を建てずに改築し、周辺に広がる古い低層の町並みに調和した計画。

延べ面積8,000m²を超える小学校を、RC造の部分を含みながら2教室単位に分節、防火上の法規制をクリアし、また構造上の耐力壁とした。地元のアヤ杉を特徴的な屋根架構に活用し、地元の大工による施工を実現している。

近年、防犯上の理由から閉ざされがちな小学校の校門がこの山鹿小学校では常に開かれており、町の通りから連続し伝統的な祭の舞台となるグラウンドへと続く「学びの街道」を、町の人々がそぞろ歩き町の人々と小学校が強く結びついている。

2教室単位で広がるオープンスペースの空間やその中の教師コーナーからは、常に子どもたちを見守ることの



できる構成となっている。そのオープンスペースは中高学年と低学年が「学びの原っぱ」で向き合い、交流が生まれるばかりか、中高学年の教室は環境面でも優れた北面教室として計画、他にも新たな計画的な提案が随所に見られる。

また、表現の舞台という名の大階段と吹き抜けからなる大空間のスペースは、全国でも活躍するコーラス部やク

ラス単位や町の人々の発表の場としても活用されている。

特筆する再生可能エネルギーの導入はないが、自然光の活用や地元の杉の無垢材の利用により、CO₂を削減し地球温暖化防止に貢献している。そして、地域産材の利用と地域大工の施工により地域経済にも貢献した。

8月の山鹿千人灯籠祭りのときに、この山鹿小学校と地域の人々との融合のありさまを見てみたいと強く感じる。

地域特別賞

九州・沖縄地区

基山町立図書館

本図書館のある基山町は佐賀県東端にあり、福岡県に隣接した人口1.7万人のコンパクトな町である。立地からベッドタウンとしての色合いが強い地域で、「図書館がまちを変える」のキャッチコピーのもと、敷地選定の段階から住民との対話を重ねて実現した図書館であり、小中学校および駅の近くの中央公園に移転整備された。暗くうっそうとして使いにくかった中央公園と施設を一体的に整備することで公園全体を明るく再生した。同規模の図書館（人口2万人以下）で貸出冊数全国1位であり、貸出数は今も伸びている。

設計に当たっては、閲覧室をはじめとして木造化・木質化を行い、鉄骨柱梁やRC造とのハイブリッド構造とすることで、自由で有機的な形状を実現し、閲覧室の静音性に配慮した扇形の複雑な建物形状を実現した。

また維持管理に配慮し、自然の山谷風をうまく取り込めるよう開口部および網戸を設置して自然通風を確保したことにより、光熱費を当初想定額の2/3に抑えている。

本を読む人だけの限定利用とならないよう、図書館ボランティアの協力を得つつ、新たに得た多目的室やラウンジを活用し、充実したイベントの企画ができるよう整備しており、維持管理、運営面でも工夫がみられる。

また、図書館の供用開始後は、周辺にも賃貸住宅や家族世帯の転入が増えるなど、まさに、図書館がまちを変

えつつあることも評価できる。

本事業は、公共建築賞に推薦された他の建築物と比べても遜色なく優れており、特に地域住民と一体となって整備・運営された好事例であることを評価し、地域特別賞として表彰するものである。



（受賞作品掲載は地区推薦順）